

**平成24年度 日独共同大学院プログラム
事後評価資料**

1. 概要

領域	化学	分科	基礎化学
		細目	有機化学
プロジェクト名	(和文) 複雑系機能物質の化学に関する共同指導プログラム (英文) Complex Functional Systems in Chemistry: International Research Training Program		
実施期間 (延長期間を含む)	2007年4月1日 ~ 2012年3月31日 (60か月)		
日本側実施機関名	名古屋大学大学院理学研究科		
コーディネーター 所属・職・氏名	物質科学国際研究センター・教授 巽 和行		
構成員数	教員等 46 名、 学生 93 名		
ドイツ側実施機関名	ミュンスター大学化学薬学部		
コーディネーター 所属・職・氏名	有機化学研究所・教授 Gerhard Erker		
構成員数	教員等 14 名、 学生 42 名		

2. 目標

終了時評価時に計画した目標とその達成度について記載してください。(2頁以内)

○終了時評価時の目標（終了時評価資料（計画調書）に記載した目標を転載のこと）

我が国の化学分野の研究水準はすでに海外の研究諸機関と同等もしくはそれ以上に達しているが、博士号を取得した若い研究者が博士研究員として、あるいは若手教員として欧米諸国の研究機関で研鑽を積んだ事が、我が国の研究活動の国際化に大きく貢献した。今後、我が国が科学技術立国として発展するためには、大学院教育体制を国際化し、博士号取得前の若い大学院生が早い時期に海外へ飛躍する機会を与える事が極めて重要である。また、日本の若手教員が海外で授業を行うとともに外国人学生に現地で研究指導を行う事により、国際的な教育研究者として成長することが強くのぞまれる。

上記の観点に立ち、本プログラムでは、これまで名古屋大学-ミュンスター大学間で4.5年間に推進した「日独共同大学院プログラム」の実績をもとに、学生の相互交換や若手教員の国際化に対する支援体制をさらに充実させたい。具体的な目標例を以下に示す。

- 1) カリキュラムの充実1：ラボラトリーコースは高度で先導的な研究指導を行う事が肝要であり、研究設備および研究環境のさらなる充実をはかる。そのために、双方の自己研究資金によって測定装置の高度化を行うとともに、実験研究の安全性を高める。
- 2) カリキュラムの充実2：ミュンスター大学の教員が有機化学者に偏重していたが、無機化学関連部門を充実させることにより、学生の研究テーマ選択幅を拡充するとともに、コア化学コースの幅を広げる。
- 3) カリキュラムの充実3：特別メンターコースの内容を発展させるべく、異文化に接する機会を増やすプログラム、また、化学企業を訪問するプログラムを常設化する。
- 4) 若手教員派遣制度の充実：若手教員は、海外で授業とセミナーを担当してきたが、今後、現地の学生に対する研究指導を手伝い、かつ学科運営の会議にオブザーバーとして参加する機会を与える事により、さらに国際的教育を実践する能力を高める。
- 5) 派遣学生受け入れ態勢の充実：名古屋大学は、これまでも、本事業の派遣学生に優先的に宿舍を貸与するなど、受け入れ体制を支援してきた。今後、一般留学生が急増することを踏まえ、既存のグローバルCOEやグローバル30（国際化拠点整備事業）との連携・調整を行い、本事業の派遣学生の受け入れ態勢をより確固たるものにする。

○目標に対する達成度

- 目標は想定以上に達成された。
- 目標は想定どおり達成された。
- 目標はある程度達成された。
- 目標はほとんど達成されなかった。

【理由】

本課題は、2005年10月から日本学術振興会のパイロットプロジェクトとして開始され、2007年4月に正式プロジェクトとして採択された。「日独共同大学院プログラム」の先駆けとして、従来型の短期派遣留学プログラムにはない、日独大学院専攻間の新たな包括的連携教育体制を提案すべく、パイオニアとしての使命感と誇りを持って国際連携教育研究モデルの構築に努めた。

その結果、部局間協定締結に基づく授業料免除、共通カリキュラムの設定、単位互換制度の構築、学生の派遣受入体制作りなど、初期設定目標を着実に達成しただけでなく、当初想定していなかった若手教員の相互派遣と授業担当システムを構築するとともに、メンターコースの充実を達成した。平成22年からのプログラム延長期間においては、派遣される博士課程学生が真の国際的研究者に成長するよう、共同教育内容のさ

らなる充実に重点をおいた。

以下に、各目標項目の達成度について説明する。

1) カリキュラムの充実 1

→国際水準に整った日独双方の実験施設においては、測定装置なども常に高度な性能を持った機種の使用が可能であり、実験や研究の安全性は元より、高速で精密な測定結果を得られ、より優れた研究成果の発表につながった。特に名古屋大学での測定においては、物質科学国際研究センターの附属施設である化学測定機器室の支援により、格段に効率の良い測定が行われ、ラボラトリーコースがさらに充実された。

2) カリキュラムの充実 2

→本プログラムの推進にあたって無機化学部門の充実をはかったことにより、新たな共同研究テーマの提案や実施がなされた。派遣学生による共同大学院コア化学コース（コア有機化学、コア無機化学、コア物理化学）の選択数も増加し、講義カリキュラムのさらなる充実が実現された。

3) カリキュラムの充実 3

→異国にて従来と異なる研究環境下におかれた派遣学生を支援する「特別メンターコース」を一層充実すべく、日本国内で開催される国際シンポジウムやセミナー等に、ドイツから派遣された学生をメンターらと共に参加させ、他大学あるいは企業研究者と意見交換をする機会を設けた。一方、ドイツに滞在する日本人学生も、ミュンスター大学以外で開催されるシンポジウム等にドイツ人学生らと一緒に参加し異国での経験を深め視野を広げることができた。

4) 若手教員派遣制度の充実

→若手教員派遣の成果を高めるべく、過去にミュンスターを訪れたことのある若手教員で特に授業に対する評価の高い者に再度の訪独機会を与えた。また、現地学生との授業内容等に関するディスカッションに加え、研究活動の支援を行うなど、派遣中の活動内容を充実させた。

5) 派遣学生受け入れ態勢の充実

→派遣学生の受入態勢に関しては、ミュンスター大学と名古屋大学理学研究科が学術交流協定を結び、学生受入に関する覚書も整備されているため、学生の宿舎への入居は順調に行われた。名古屋大学の宿舎への入居申請に関しては、受入の身分や交流事業などによって優先順位がつけられているが、本プログラムの交換学生は優先的に取り扱われた。

各派遣・受入学生が所属する両国の研究室において、これまでの受入経験から派遣学生へのサポート体制が整っており、配属された学生らは、来日（訪独）当初から落ち着いた環境の下で研究・生活を始める事ができた。

<その他の実績>

*日独が連携した緊急連絡体制を確立していたため、東日本大震災発生時に素早く対応することができた。

*本プログラムを紹介する英文・和文のパンフレット、定期刊行したニュースレターに加え、日独共同大学院プログラム5年間にわたる成果をまとめた記録冊子を作成した。

(Track Record Summary 2005-2008, 2009-2012、日独共同大学院プログラム 2005-2008, 2009-2012、Joint Publications 2008-2011、Impressions of Research Stay from German Students 2005-2012)

*ホームページにて、常に最新の情報発信を実施した。

*ドイツ総領事を名古屋大学に招いて、日独交流150周年記念の特別企画を開催した。

*異教授と Erker 教授がザイボルト賞を受賞した。(2011年5月ベルリンにて)

3. これまでの交流を通じて得られた成果

これまでの交流を通じての成果を「共同課程の準備」、「継続的協力関係」、及び「教育研究効果」の観点から記載してください。(3頁以内)

○共同課程の準備（準備→確立→実施）

日独双方において、共同課程の基となる3つの共同指導コース（共同大学院ラボラトリーコース、共同大学院特別メンターコース、共同大学院コア化学コース）は、パイロットプロジェクトとしてプログラムを開始してから最初の3年以内に確立された。平成19年に名古屋大学大学院理学研究科に、新カリキュラム・単位認定方式が導入された際に新たに設定された国際コースを、本共同大学院プログラムの国際的単位互換・認定システムと連携させた。例えば、名古屋大学からミュンスター大学に派遣された学生が帰国時にドイツ側担当教員より受領した修了証明書に基づき、名古屋大学の単位として認定した。また、ドイツから派遣された学生に対して学業実績を評価し、日本側担当教員より修了証明書を発行した。本プログラム全実施期間を通じて、下記の単位認定が行われた。

* 611 国際共同研究1、612 国際共同研究2、613 国際共同研究3、614 国際共同研究4（各2単位）：

「共同大学院ラボラトリーコース」の修了証明書に基づき、2ヶ月期間ごとの研究活動に対して「国際共同研究1」から順次2単位を与える。

- 平成19年度 4件（各2単位）認定
- 平成20年度 3件（各2単位）認定
- 平成21年度 2件（各2単位）認定
- 平成22年度 4件（各2単位）認定
- 平成23年度 7件（各2単位）認定

* 711 国際共同特別ゼミナール（1単位）：「共同大学院特別メンターコース」の修了証明書に基づき、期間に関係なく「国際共同特別ゼミナール」1単位を与える。

- 平成19年度 5件（各1単位）認定
- 平成20年度 5件（各1単位）認定
- 平成21年度 3件（各1単位）認定
- 平成22年度 4件（各1単位）認定
- 平成23年度 6件（各1単位）認定

* 621 国際共同コア化学1、622 国際共同コア化学2、623 国際共同コア化学3（各1単位）：

「共同大学院コア化学コース」の修了証明書に基づき、2ヶ月間相当の授業に対して「国際共同コア化学1」から順次1単位を与える。

- 平成19年度 4件（各2単位）認定
- 平成20年度 3件（各2単位）認定
- 平成21年度 2件（各2単位）認定
- 平成22年度 4件（各2単位）認定
- 平成23年度 7件（各2単位）認定

○継続的協力関係

2005年に名古屋大学大学院理学研究科・理学部及び物質科学国際研究センターとミュンスター大学化学薬学部の間で「学術交流に関する協定」が締結された。下記に、協定の主項目とそれに対応した取り組みを示す。

(1) 学生の交流

ミュンスター大学と名古屋大学間で締結された学術交流協定に付随する「学生交換に関する覚え書き」

により、双方の学生に対する受入体制の確立が、施設面と研究環境の両面で約束された。この「覚え書き」の締結により、日独双方での学生の受入に際し、入国手続きから入居手続き、受講および研究活動の開始など、様々な面で受け入れが極めてスムーズになされた。それにより、双方の学生の異国での生活への不安が解消され、研究に集中できる環境作りに大いに役立った。

(2) 教員及び研究者の交流

学生の交流のみならず、若手教員の派遣や、年に一度ずつ日本とドイツ双方で開催される共同セミナーなどを通じて、若手教員／研究者間の交流も有意義かつ有効に行われ、それが新たな共同研究のシーズに結びついた。

(3) 学術資料、刊行物及び学術情報の交換

日独双方で作成された本プログラムに関する記録冊子や共著論文に関する情報、また本プログラムを紹介する電子情報やパンフレット／ニュースレター／小冊子などが常に相互で共有できるよう、密な連絡をとりあった。

(4) 共同研究活動

派遣・受入をする日独双方の研究室では、進行中の共同研究活動に加えて、新たに派遣される学生がさらに自身の共同研究テーマを提案し、常に新鮮で活発な共同研究活動の場を作り出した。

「学術交流に関する協定」と「学生交換に関する覚え書き」はどちらか一方の申し出がない限り引き続き有効なものとして取り扱われるが、すでに名古屋大学では本プログラムが最も活発な国際交流事業であると認知されている。国際連携を含む他の事業、例えば名古屋大学のグローバル COE やグローバル 30（国際化拠点整備事業）等とも適宜連携した。これらの教育研究事業を推進するにあたり、この日独共同大学院プログラムの成果が大いに貢献したと考える。

○教育研究効果

< 国際的な環境における大学院学生の成長 >

ドイツへ派遣された大学院生は、かなり異なる文化の中に身をおいて、日常的に英語でのコミュニケーションをとりながら研究活動を行ってきた。これらの経験を経た派遣学生は、国際人として大きな自信を得て帰国した。臆することなく英語での意志伝達やディスカッションに挑戦する姿勢など、明確な形で成長の跡がみられた。短期で派遣された大学院生においては、そのほとんどが海外での英語による口頭発表が初体験であったが、事前の十分な発表練習と現地でのドイツ人学生との英語でのやりとりから得た自信により、全員優れた発表を行なった。本プログラムの共同セミナーの様子はホームページ上にて、プログラムから発表の様子まで、多くのデータや写真で見られるように工夫している。名古屋大学広報誌「名大トピックス」でも毎回取り上げられ、大学院生が成長する記録は全学に伝えられている。

*名大トピックスへの掲載内容については、添付資料（冊子）の「日独共同大学院プログラム 2005-2008、2009-2012」内を参照

< 若手教員による海外での講義経験がもたらしたもの >

名古屋大学大学院理学研究科（化学系）に属するほとんどすべての若手教員が、本プログラムで訪独し、ミュンスター大学において各自が専門とする化学の講義を英語で行ってきた。現地の科目担当教員から講義テーマと内容に関するアドバイスを受けた後、数十枚から数百枚のスライドを講義ごとに準備し、授業の進行を予想して事前に練習を行うなど、出発前から本番さながらの準備をして臨み、多くの事を得て帰国している。ド

イツ側の評判も大変高いものとなった。

一週間以内の短い訪問の間に、平均2日の講義と1回のセミナーをこなし、また現地に滞在する日本人学生の研究指導も行った。さらに、共同研究を行う研究室の教員や学生と研究の進捗状況などに関する打ち合わせも行うなど、国際的な研究者および教員として必要とされる経験を積み、今後国際的に通用する研究者として自立するための大きな自信をつけた。

*若手教員の派遣報告は、添付資料（冊子）「日独共同大学院プログラム 2005-2008, 2009-2012」中に掲載

<多数の共著論文にみられる優れた共同研究成果>

日独双方の研究者および交換学生による共同研究の優れた成果が、2011年12月時点で30報の共著論文（掲載済みのみ）という形で発表された。2005年のパイロットプロジェクト開始時から育まれた共同研究の芽は、2008年に最初の共著論文発表となった。その後、共同研究の機運がさらに高まり、異分野融合型を含む多くの優れた成果が得られ、研究発表の数が次第に増えていった。本事業終了後も、共著論文数はさらに増えるものと期待している。

共著論文が作成される過程では、双方の教員同士のみならず、共同研究に加わった学生らも相手側の担当教員と論文の内容について意見交換したり、検証作業の打ち合わせを行ったりするなど、活発なやり取りが行われた。このような双方の協力が、優れた研究成果として実を結んだことと思われる。

*詳細は、添付資料（冊子）の「Joint Publications 2008-2011:共著論文集」を参照

<高水準な博士論文による学位の取得>

ミュンスターに派遣された日本人学生は、帰国後に滞在中の研究報告をまとめ、その成果は名古屋大学に申請する博士論文の一部として重要な位置を占めた。日独双方での効果的で熱心な研究指導の結果、本プログラムの目標の主要項目として掲げてきた「国際的に高水準な博士論文の作成を日独で相互に支援し、博士号の質を向上させる」というゴールは十分に達成された。

日独双方の派遣学生が相手国で学んだ様々な事項、また派遣先で出会った多くの学生や研究者との個人的な繋がりをこれからも大切に、国際的な舞台で活躍できる視野の広い研究者として成長してくれることを、切に希望している。

*派遣学生のドイツ研究報告と滞在の感想などは添付資料（冊子）、「Track Record Summary 2005-2008, 2009-2012」に掲載

<共同セミナー開催の意義>

本プログラムを振り返ってみると、毎年名古屋とミュンスターで一度ずつ開催してきた共同セミナーは、大変重要な意義を持っていたと感じている。メールや電話などでの打ち合わせが増えてはいるが、年に「二度」お互いが直接顔を合わせて意見交換することの重要性は明らかで、本プログラムでの活発な共同研究実施の原動力となった。

学生の派遣先の決定や共同研究の進捗状況の確認を始めとし、参加した双方の学生らが、現地の研究室を見学したり、すでに研究滞在を始めている学生の話や直接聞くことができるなど、事前の情報収集をほぼ完璧に行うことができた。共同セミナーが、本プログラムの共同教育および共同研究の開始・展開・成果達成の各段階で重要な役割を担うとともに、学生らや若い教員の国際交流の場として十分に活用されたと考える。

4. プロジェクトの実施状況

(1) 分野及びプロジェクトの発展

終了時評価時に記載した実施機関の目標及び必要性を踏まえて、どのようにして対象となる分野及びプロジェクトがドイツとの交流を通して深化・発展したか記載してください。

日独共同大学院プログラムの実施によって、これまで行われてきた研究者同士の個人での共同研究枠を超え、組織と組織が連携して推進する共同教育研究事業を行うことが可能になったその過程において、日独両国の大学体制や研究費システムの相違点や共通点らが明確になり、双方が教育研究のグローバル化に取り組む共通の基盤が築かれた。日独両国において、大学教育（大学院教育）の国際化に対する要請が極めて強いことも認識された。

さらに、大学院生の相互派遣を通じて、日本とドイツの研究室間より新たな共同研究が多数提案・実施された。その中で特に、異分野間の境界領域共同研究に発展した例を下記にあげ、その成果として生まれた共著論文数を示す。

<日本>		<ドイツ>		<共著論文>
生物無機化学	—	有機金属	→	4 報
無機化学	—	有機金属化学	→	4 報
物性化学	—	有機化学	→	2 報
マテリアル化学	—	物理化学	→	3 報

本プログラムの実施に伴い、日独間で上記のような異分野間の研究協力体制が構築されたことは望外の喜びであった、従来の研究者個人間の共同研究プログラムでは達成できない、視野の広い先導的な研究へと展開された。

(2) コーディネーター及び参加教員の取り組み状況

日本側コーディネーター及び参加教員は当該プロジェクトの実施を適切に行ってきたかについて、日本側コーディネーターや教員等の取り組み状況に触れながら記載してください。

両大学のコーディネーターである巽和行教授と Gerhard Erker 教授は、本事業立ち上げ当初から継続して、頻繁に連絡を取り合い、本プロジェクトの推進と新たな展開の可能性について意見交換するとともに、新たな共同教育研究の芽の発見に努めた。また、各参加教員らも、絶えず共同研究進捗状況の把握に努め教員間の話し合いや、受入・派遣学生との研究内容の打合せを綿密に行った。また、日独両国に滞在する学生をシンポジウムや学会に積極的に参加させるなど、本プログラムの担当教員としての役割を確実に果たした。共同論文の多さや交換学生の満足度の高さは、このような参加教員の熱意と高い研究指導能力による結果であり、本プログラムが成功裏に遂行された最大の要因である。

また、コーディネーターを始め参加する各教員らは、折に触れ本プログラムの成果やその活発な活動の様子を国内外に発信してきた。本プログラムの成果と、日独共同大学院プログラムによる新たな包括的連携教育体制確立の意義が広く認知されるようになった。

<ザイボルト賞 2011 を受賞>

巽和行教授と Gerhard Erker 教授は、ドイツ研究振興協会 (DFG:Deutsche Forschungsgemeinschaft) が二年に一度日本とドイツの学術発展に貢献した研究者におくるザイボルト賞 2011 (Eugen und Ilse Seibold Prize 2011) を受賞した。これは文系領域と理系領域が二年ごとに交互に対象とされるものだが、理系領域が対象となった 2011 年には本プログラムの両コーディネーターが、受賞を果たした。5 月 20 日にベルリンの Brandenburg Academy of Sciences and Humanities にて授賞式が行われた。

(3)教育研究環境の整備

当該大学において、プロジェクトの目的を達成するにあたって必要な施設設備、及び経済的負担の軽減措置等、組織的な取り組み状況について記載してください。

<施設設備について>

○実験環境面

名古屋大学大学院理学研究科および物質科学国際研究センターの研究環境は国際水準に達しているだけでなく、多くの面でミュンスター大学の実験設備より優れていると思われる。分析装置類も最新型が多数揃っている。そのため、本プログラムを遂行するにあたってドイツから派遣された学生諸君は、大変恵まれた環境で高度な共同研究を推進することができた。

○生活環境面 ー 宿舎への優先的な入居 ー

名古屋大学では毎年海外から多くの留学生や研究者を受け入れている。ミュンスター大学化学薬学部と名古屋大学大学院理学研究科との間で交わされた覚書に「交換学生に対して大学寮、アパート、下宿、ホームステイなどの宿舎を確保する責任を負う」と謳われていることから、本プログラムで来日するドイツ人学生らに対して、優先的にキャンパス内の宿舎が確保された。

<経済的負担の軽減措置について>

○授業料の免除

日独双方の交換学生は、所属大学に在籍したまま本プログラムに参加するため、自国の大学へ授業料を納めている。本プログラムでは、学生交換に関する覚書のもと、名古屋大学・ミュンスター大学双方とも、留学先における入学金や授業料は免除されている。

<組織的な取り組みについて>

○施設・環境安全面での取り組み

名古屋大学大学院理学研究科と物質科学国際研究センターでは、教育研究設備の安全性確保に力を入れてきた。本プログラムを遂行するにあたり、特に安全面に厳格なミュンスター大学に習い、合成実験の設備における安全対策や毒劇物の管理等の確立さらに努力した。双方の学生の受入にあたっては、安全に関する各実験室で設定されたルールの遵守を徹底すべく指導した。

○危機管理への取り組み

名古屋大学では、海外留学生の危機管理留意事項を含む「名大生のための海外留学ハンドブック」を作成し、大学間交流協定校へ交換留学する学生等に配布している。また、現在の危機情報の提供、渡航者向けの研修の定期的実施、リスク発生時の緊急対策本部の設置など、危機管理全般の実施を定めた「海外渡航等リスク管理マニュアル」を作成し、これに基づき総合的な危機管理を実施している。

○傷害保険について

名古屋大学で受け入れる学生に関しては、正規留学生としての傷害保険加入が適用される。しかしこれは、キャンパス内における安全のみを保証範囲とするものととどまるので、日独双方の学生においては、自国を出発前に独自に傷害保険等に加入することを義務づけ徹底した。

(4)経費の合理性

経費の執行状況について記載してください。

日本学術振興会から本プログラムに配分された経費は、プログラムの趣旨と実施計画に沿って有効に執行された。

学生の派遣にかかる旅費を中心とし、年に1度ミュンスターにて開催される共同セミナーに参加するための教員及び学生の旅費、また若手教員派遣のための訪独旅費を始め、本プログラムの遂行のために計画された訪独旅費は、本経費によってすべて負担することができた。また、年に1度名古屋で開催される共同セミナーにかかる諸経費（共同セミナー開催告知ポスター作成や看板作成費用）なども本経費によって負担された。主だった計画の執行に関して予算の不安はなく、綿密に立案された各年度の事業計画に沿って予定通り事業を遂行することができた。

派遣事業などにかかる直接の執行予算の他は、すでに整備された施設環境を持つ名古屋大学大学院理学研究科及び物質科学国際研究センターの協力のお陰で、物品費の使用を最低限に抑える事ができたため、日独共同大学院ホームページのメンテナンス費用や、毎年度末に作成する日独ニュースレター、事業に関するとりまとめ冊子や共著論文集の作成などに有効に使用することができた。これにより、派遣旅費以外の必要経費として、本プログラムの成果の情報発信や多数の記録冊子の発行に重点的に配分することができたので、効率的な経費執行を行うことができた。

本プログラム5年間の記録として作成してきた冊子やホームページ掲載のデータなどは、今後の利用が期待される極めて有用なもので、長期に管理保管していく計画である。

5. 今後の展望

今後、当該大学とドイツ側大学との共同教育研究活動を持続的に展開してく上での将来展望について記載してください。

<若手研究者の相互派遣の継続と国際共同研究のさらなる発展>

本プログラムの相互派遣制度により、大学院学生や若手教育者が国際的な化学教育研究者として成長するための支援を行い、着実に実績をあげてきた。今後も、このような支援活動を持続発展させていくのが我々の使命であろう。そのためには、我が国の教育研究の国際化推進に対してさらにステップアップした目標を設定することが必要となる。

名古屋大学が推進してきた日独共同大学院プログラムは、今後は日本学術振興会に採択された「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」(革新的分子触媒と新規機能性物質の創製)により発展的に継承される。新たに、ベルリン工科大学とギーセン大学を加え、国際的に活躍できる若手研究者を相互に養成するべく、ミュンスター大学と名古屋大学が核となって日独共同で新プロジェクトを推進することになる。日独共同大学院プログラムのこれまでの成果を踏まえ、「博士研究員」や大学院生をドイツに派遣して共同研究の更なる展開を期す。日独共同大学院プログラムで博士号を取得した交換学生を、新プログラムで「博士研究員」として再びドイツへ長期派遣する予定で、今後日独両国の化学界の発展に寄与してくれる人材になってくれることと期待している。

博士課程学生の早い時期から海外での研究生活を経験し、英語での発表や教育を受ける機会を与える事を日独共同大学院プログラムの当初の目標とした。そのプログラムを実施する過程で、若手教員を派遣して授業を行う機会を与えることの重要性を認識した。このように、若い時期にドイツで教育研究の両面に渡り研鑽を積み、国際的に通用する研究者としての素養や経験を身につけてもらうための支援を行ってきたが、今後はさらに国際研究活動の場および国際学術組織で中心的な役割を担い、その活動を先導する国際学者を養成することを次のステップの目標としたい。

若い時代に単一の国内研究グループに埋没する傾向がまだ残る我が国において、日独大学院プログラムが大学院教育の国際化に果たした役割は極めて大きかったと思う。名古屋大学とミュンスター大学は、それぞれの国で化学研究の中核的研究拠点として認知されており、これまでの経験を生かして国際共同教育研究を推進する旗手としての役割を協力して今後も果たしたい。

<教育研究の国際化をバックアップする支援組織>

本プログラムの大学院学生や若手教員相互派遣・受入を円滑に行うため、それを支える事務支援体制の確立に努めた。これまでに培ってきた事務支援部門の国際化に対するノウハウを活かし、支援体制をさらに充実させるべく、英語による日常的な事務作業や入管申請業務、そして派遣者や受入者に起こる突発的な事象への対応、また双方の機関間で迅速な対応ができる緊密な連絡体制の構築などを継続して進める必要がある。

これまでの日独共同大学院プログラム実施期間において、事務支援体制は十分に機能してきたが、今後は新たにベルリン工科大学や、ギーセン大学が加わり、ネットワークを広げていく必要がある。また、「部局間学術交流協定」や「学生受入に関する覚書」などの締結が必要になってきた際には、積極的にその実現に向けた支援を行いたい。

<経費獲得の努力>

これまでに成果を残してきた日独共同教育研究活動を今後も持続発展させるためには、それを可能にするための財源を獲得する努力を継続していくことが必要である。

6. 活動実績

(1)実施した「共同課程」について概略を記入してください。

1	科目名等	共同大学院ラボラトリーコース	提供期間	2007年4月～2012年3月
	提供した大学	ミュンスター大学／名古屋大学	単位数	2-8単位
	概要	<p>学生は、自身で希望する相手側研究室を選定し、その研究室を主催する教員から直接教育研究指導を受ける。本コースで行う研究題目と内容については、派遣前に検討を行い、派遣側の担当指導教員の承諾を得るものとする。学生は、合格すれば担当教員から修了証明書を受けるものとする。</p> <p>名古屋大学から派遣された学生には、修了証明書に基づき、本コース実施の2ヶ月期間毎に、611-国際共同研究1、612-国際共同研究2、613-国際共同研究3、614-国際共同研究4(各2単位)の単位を順次認定する。</p>		
2	科目名等	共同大学院特別メンターコース	提供期間	2007年4月～2012年3月
	提供した大学	ミュンスター大学／名古屋大学	単位数	1単位
	概要	<p>相互に派遣される学生に幅広い化学の基礎知識と素養を付与するため、受け入れ側で複数の教員によるアカデミックアドバイスを受ける。該当学生が配属される研究室の指導教員を主担当者とし、異なった研究分野の教員2名以上が加わるものとする。学生は、修了すれば担当教員から修了証明書を受けるものとする。</p> <p>名古屋大学から派遣された学生には、本コースの修了証明書に基づき、期間に関係なく711-国際共同特別ゼミナール(1単位)の単位を認定する。</p>		
3	科目名等	共同大学院コア化学コース(コア有機化学)	提供期間	2007年4月～2012年3月
	提供した大学	ミュンスター大学／名古屋大学	単位数	1-3単位
	概要	<p>有機化学に関連した高度な基礎知識を学ぶ。天然物有機化学、食品化学、有機構造化学、有機反応化学、有機合成化学、生物化学などの内容からなる科目を、学生は適宜選択して受講する。派遣時期により、本コースはセミナー形式でなされる場合がある。受講学生は、合格すれば担当教員から修了証明書を受けるものとする。</p> <p>名古屋大学から派遣された学生には、本コースの修了証明書に基づき、2ヶ月間相当の授業に対して621-国際共同コア化学1、622-国際共同コア化学2、623-国際共同コア化学3(各1単位)の単位を順次認定する。</p>		
4	科目名等	共同大学院コア化学コース(コア無機化学)	提供期間	2007年4月～2012年3月
	提供した大学	ミュンスター大学／名古屋大学	単位数	1-3単位
	概要	<p>無機化学に関連した高度な基礎知識を学ぶ。生物無機化学、遷移金属錯体化学、錯体触媒化学、錯体構造反応化学、分析化学などの内容からなる科目を、学生は適宜選択して受講する。派遣時期により、本コースはセミナー形式でなされる場合がある。受講学生は、合格すれば担当教員から修了証明書を受けるものとする。</p> <p>名古屋大学から派遣された学生には、本コースの修了証明書に基づき、2ヶ月間相当の授業に対して621-国際共同コア化学1、622-国際共同コア化学2、623-国際共同コア化学3(各1単位)の単位を順次認定する。</p>		

5	科目名等	共同大学院コア化学コース(コア物理化学)	提供期間	2007年4月～2012年3月
	提供した大学	ミュンスター大学／名古屋大学	単位数	1-3単位
	概要	<p>物理化学に関連した高度な基礎知識を学ぶ。物性化学、分子機能化学、機能表面科学、量子物理化学、理論化学、機能材料化学などの内容からなる科目を、学生は適宜選択して受講する。派遣時期により、本コースはセミナー形式でなされる場合がある。受講学生は、合格すれば担当教員から修了証明書を受けるものとする。</p> <p>名古屋大学から派遣された学生には、本コースの修了証明書に基づき、2ヶ月間相当の授業に対して 621-国際共同コア化学1、622-国際共同コア化学2、623-国際共同コア化学3(各1単位)の単位を順次認定する。</p>		

※ 記入欄が足りない場合には、適宜追加してください。

(2)このプロジェクトに関連した主な発表論文・著者名

教員等・大学院学生が本プロジェクトの成果として実施期間中に発表した主な論文等(本事業名が明記されているもの)を記載してください。参加教員等・大学院学生の氏名にはアンダーラインを付してください。また、ドイツ側の参加者との共著論文には、文頭の番号に○印を付してください。

①学術雑誌等(紀要・論文集等も含む)に発表した論文又は著書

- ・ 査読がある場合、印刷済み及び採録決定済のものに限り、査読中・投稿中のものは除く。

①	著者名	H. Okimoto, W. Hemme, Y. Ito, T. Sugai, R. Kitaura, H. Eckert, H. Shinohara								
	題名	<i>Solid-state ¹³C and ⁴⁵Sc NMR studies on endohedral scandium-carbide metallofullerenes: a motional dynamics of Sc atoms in fullerenes</i>				掲載誌名	NANO			
	発行所	American Chemical Society	巻号	3	頁	21~21	発行年	2008年	査読	有
②	著者名	D. P. Huber, G. Kehr, K. Bergander, R. Fröhlich, G. Erker, S. Tanino, Y. Ohki, K. Tatsumi								
	題名	<i>Heterolytic Cleavage of Dihydrogen by Frustrated Lewis Pairs Derived from α-(Dimethylphosphino)ferrocenes and B(C₆F₅)₃</i>				掲載誌名	Organometallics			
	発行所	American Chemical Society	巻号	27	頁	5279~5284	発行年	2008年	査読	有
③	著者名	S. Abe, J. Niemeyer, M. Abe, Y. Takezawa, T. Ueno, T. Hikage, G. Erker, Y. Watanabe								
	題名	<i>Control of the Coordination Structure of Organometallic Palladium Complexes in an apo-Ferritin Cage</i>				掲載誌名	J. Am. Chem. Soc.			
	発行所	American Chemical Society	巻号	130	頁	10512~10514	発行年	2008年	査読	有
④	著者名	J. Niemeyer, S. Abe, T. Hikage, T. Ueno, G. Erker, Y. Watanabe								
	題名	<i>Noncovalent Insertion of Ferrocenes into the Protein Shell of apo-Ferritin</i>				掲載誌名	Chem. Commun			
	発行所	Royal Society of Chemistry Publishing	巻号	48	頁	6519~6521	発行年	2008年	査読	有

⑤	著者名	L. Schmiech, <u>D. Uemura</u> , T. Hoffmann								
	題名	<i>Reinvestigation of the Bitter Compounds in Carrots (Daucus carota L.) by Using a Molecular Sensory Science Approach</i>				掲載誌名	<i>J. Agric. Food Chem</i>			
	発行所	American Chemical Society	巻号	56	頁	10252~10260	発行年	2008年	査読	有
⑥	著者名	<u>M. Kitamura</u> , Y. Takenaka, T. Okuno, R. Holl, B. Wünsch								
	題名	<i>A New, Efficient and Direct Preparation of TITp and Related Complexes with TIBH4</i>				掲載誌名	Eur. J. Inorg. Chem			
	発行所	Wiley	巻号	8	頁	1188~1192	発行年	2008年	査読	有
⑦	著者名	R. Holl, M. Dykstra, M. Schneiders, R. Fröhlich, <u>M. Kitamura</u> , E.-U. Würthwein, B. Wünsch								
	題名	<i>Synthesis of 2,5-Diazabicyclo[2.2.2]octanes by Dieckmann Analogous Cyclization</i>				掲載誌名	Austr. J. Chem			
	発行所	CSIRO Publishing	巻号	61	頁	914~919	発行年	2008年	査読	有
⑧	著者名	W. L. Hemme, W. Fujita, <u>K. Awaga</u> , H. Eckert								
	題名	<i>Intercalation of Stable Organic Radicals into Layered Saponite Clay</i>				掲載誌名	<i>Dalton Trans</i>			
	発行所	Royal Society of Chemistry Publishing	巻号	38	頁	7995~8004	発行年	2009年	査読	有
⑨	著者名	V. T. Trepohl, S. Mori, <u>K. Itami</u> , M. Oestreich								
	題名	<i>Palladium(II)-Catalyzed Conjugate Phosphination of Electron-Deficient Acceptors</i>				掲載誌名	<i>Org. Lett</i>			
	発行所	American Chemical Society	巻号	11	頁	1091~1094	発行年	2009年	査読	有
⑩	著者名	N. Rosenberger, A. Studer, N. Takatani, <u>H. Nakajima</u> , <u>Y. Watanabe</u>								
	題名	<i>Azurin-poly(N-Isopropylacrylamide) Conjugates by Site Directed Mutagenesis and their Thermosensitive Behavior in Electron Transfer Processes</i>				掲載誌名	<i>Angew. Chem</i>			
	発行所	Wiley	巻号	121	頁	1979~1983	発行年	2009年	査読	有
⑪	著者名	V. T. Trepohl, S. Mori, <u>K. Itami</u> , M. Oestreich								
	題名	<i>Structure-Affinity-Relationship study of Bicyclic σ Receptor Ligands</i>				掲載誌名	<i>Central Nervous System Agents in Medicinal Chemistry, Special Issue</i>			
	発行所	Bentham Science Publishers Ltd.	巻号	Special issue	頁	220~229	発行年	2009年	査読	有

⑫	著者名	D. Kracht, <u>S. Saito</u> , B. Wünsch							
	題名	<i>Synthesis of 1,4-Diazabicyclo[3.3.1]nonan-6-ones</i>				掲載誌名	<i>Austr. J. Chem</i>		
	発行所	CSIRO Publishing	巻号	62	頁	1684~1689	発行年	2009年	査読
⑬	著者名	M. Ohta, M. P. Quick, <u>J. Yamaguchi</u> , B. Wünsch, <u>K. Itami</u>							
	題名	<i>Fe-Catalyzed Oxidative Coupling of Heteroarenes and Methylamines</i>				掲載誌名	<i>Chem. Asian J.</i>		
	発行所	Wiley	巻号	4	頁	1416~1419	発行年	2009年	査読
⑭	著者名	S. Janich, R. Fröhlich, A. Wilken, J. V. Zamory, <u>A. Wakamiya</u> , <u>S. Yamaguchi</u> , E.-U. Würthwein							
	題名	<i>3,4-Dihydro-3H-pyrrol-2-imines as Conformationally Restrained 1,3-Diazabutadienes: Synthesis, Structural Properties and Protonation</i>				掲載誌名	<i>Eur. J. Org. Chem</i>		
	発行所	Wiley	巻号	-	頁	2077~2087	発行年	2009年	査読
⑮	著者名	S. Janich, R. Fröhlich, <u>A. Wakamiya</u> , <u>S. Yamaguchi</u> , E.-U. Würthwein							
	題名	<i>Tetraaryl-tetradecahydroporphyrin: Novel Porphyrin Derivatives Featuring a Cyclic Benzene Ring Tetramer</i>				掲載誌名	<i>Chem. Eur. J</i>		
	発行所	Wiley	巻号	15	頁	10457~10463	発行年	2009年	査読
⑯	著者名	W. L. Hemme, W. Fujita, <u>K. Awaga</u> , H. Eckert							
	題名	<i>Intercalation of Stable Organic Radicals into Layered Inorganic Host Matrices: Preparation and Structural Characterization of Cd_{1-x}PS₃(metaMPYNN)_{2x}</i>				掲載誌名	<i>J. Solid State Chem.</i>		
	発行所	Elsevier	巻号	182	頁	3330~3341	発行年	2009年	査読
⑰	著者名	F. Eweiner, <u>S. Senda</u> , K. Bergander, C. Mück-Lichtenfeld, S. Grimme, R. Fröhlich, M. Aoyama, H. Kawaguchi, <u>Y. Ohki</u> , <u>T. Matsumoto</u> , G. Kehr, <u>K. Tatsumi</u> , G. Erker							
	題名	<i>Evidence for a Rapid Degenerate Hetero-Cope-type Rearrangement in Cp*W(S)₂S-CH₂CH=CH₂</i>				掲載誌名	<i>Chem. Asian J.</i>		
	発行所	Wiley	巻号	4	頁	1830~1833	発行年	2009年	査読
⑱	著者名	<u>M. Sakamoto</u> , <u>Y. Ohki</u> , G. Kehr, G. Erker, <u>K. Tatsumi</u>							
	題名	<i>Catalytic hydrogenation of C=O and C=N bonds via heterolysis of H₂ mediated by metal-sulfur bonds of rhodium and iridium thiolate complexes</i>				掲載誌名	<i>J. Organomet. Chem.</i>		
	発行所	Elsevier	巻号	694	頁	2820~2824	発行年	2009年	査読
⑲	著者名	B. Cramer, H. Harrer, K. Nakamura, <u>D. Uemura</u> , H.-U. Humpf							
	題名	<i>Total Synthesis and Cytotoxicity Evaluation of all Ochratoxin A stereoisomers</i>				掲載誌名	<i>Biorg. Med. Chem.</i>		
	発行所	Elsevier	巻号	18	頁	343~347	発行年	2010年	査読

⑳	著者名	D. Kracht, <u>S. Saito</u> , R. Fröhlich, B. Wunsch							
	題名	<i>Synthesis of a Silanol Substituted Proline Analogues as Organocatalyst</i>				掲載誌名	<i>Z. Naturf.</i>		
	発行所	The Zeitschrift für Naturforschung	巻号	64b	頁	1169~1175	発行年	2009年	査読
㉑	著者名	C. Chen, F. Eweiner, B. Wibbeling, R. Fröhlich, <u>S. Senda</u> , <u>Y. Ohki</u> , <u>K. Tatsumi</u> , S. Grimme, G. Kehr, G. Erker							
	題名	<i>Exploring the Limits of Frustrated Lewis Pair Chemistry with Alkynes: Detection of a System that Favors 1,1-Carboboration over Cooperative 1,2-P/B-Addition</i>				掲載誌名	<i>Chem. Asian J.</i>		
	発行所	Wiley	巻号	5	頁	2199~2208	発行年	2010年	査読
㉒	著者名	A. Job, <u>A. Wakamiya</u> , G. Kehr, G. Erker, and <u>S. Yamaguchi</u>							
	題名	<i>Electronic Tuning of Thiazolyl-Capped p-Conjugated Compounds via a Coordination/Cyclization Protocol with B(C₆F₅)₃</i>				掲載誌名	<i>Org. Lett.</i>		
	発行所	American Chemical Society	巻号	12	頁	5470~5473	発行年	2010年	査読
㉓	著者名	<u>O. Shoji</u> , C. Wiese, <u>T. Fujishiro</u> , <u>C. Shirataki</u> , B. Wunsch, <u>Y. Watanabe</u>							
	題名	<i>Aromatic C-H Bond Hydroxylation by P450 Peroxygenases: A Facile Colorimetric Assay for Monooxygenation Activities of Enzymes Based on the Russig's Blue Formation</i>				掲載誌名	<i>J. Biol. Inorg. Chem.</i>		
	発行所	Springer	巻号	15	頁	1109~1115	発行年	2010年	査読
㉔	著者名	W. L. Hemme, W. Fujita, <u>K. Awaga</u> , H. Eckert							
	題名	<i>Solid State NMR Strategies for the Structural Characterization of New Hybrid Materials Based on the Intercalation of Nitroxide Radicals into CdPS₃</i>				掲載誌名	<i>Solid State Nuclear Magnetic Resonance</i>		
	発行所	Elsevier	巻号	39	頁	106~115	発行年	2011年	査読
㉕	著者名	H. F. T. Klare, M. Oestreich, J. Ito, H. Nishiyama, <u>Y. Ohki</u> , <u>K. Tatsumi</u>							
	題名	<i>Cooperative Catalytic Activation of Si-H Bonds by a Polar Ru-S Bond: Regioselective Low-Temperature C-H Silylation of Indoles under Neutral Conditions by a Friedel-Crafts Mechanism</i>				掲載誌名	<i>J. Am. Chem. Soc.</i>		
	発行所	American Chemical Society	巻号	133	頁	3312~3315	発行年	2011年	査読
	著者名	Y. Takezawa, P. Böckmann, N. Sugi, Z. Wang, S. Abe, T. Murakami, T. Hikage, G. Erker, <u>Y. Watanabe</u> , S. Kitagawa, T. Ueno							

26	題名	<i>Incorporation of Organometallic Ru Complexes into Apo-Ferritin Cage</i>				掲載誌名	<i>Dalton Trans.</i>			
	発行所	Royal Society of Chemistry Publishing	巻号	40	頁	2190~2195	発行年	2011年	査読	有
27	著者名	S. Kirchberg, S. Tani, K. Ueda, <u>J. Yamaguchi</u> , A. Studer, and <u>K. Itami</u>								
	題名	<i>Oxidative Biaryl Coupling of Thiophenes and Thiazoles with Arylboronic Acids through Palladium Catalysis: Otherwise Difficult C4-Selective C-H Arylation Enabled by Boronic Acids</i>				掲載誌名	<i>Angew. Chem. Int. Ed.</i>			
	発行所	Wiley	巻号	50	頁	2387~2391	発行年	2011年	査読	有
28	著者名	L. Lohrey, T. Murata, <u>D. Uemura</u> , H-U Humpf								
	題名	<i>Synthesis of Isotopically Labeled Fusarium Mycotoxin ¹³C₂-Moniliformin [1-Hydroxycyclobut-1-ene-3,4-dione]</i>				掲載誌名	<i>SYNLETT</i>			
	発行所	Gerog Thieme Verlag KG	巻号	15	頁	2242~2244	発行年	2011年	査読	有
29	著者名	A. Bruch, <u>A. Fukazawa</u> , E. Yamaguchi, <u>S. Yamaguchi</u> , R. Fröhlich, and A. Studer								
	題名	<i>Bis(phosphoryl)-Bridged Bisphenyls by Radical Phosphanylation: Synthesis and Photophysical and Electrochemical Properties</i>				掲載誌名	<i>Angew. Chem. Int. Ed.</i>			
	発行所	Wiley	巻号	50	頁	1~6	発行年	2011年	査読	有
30	著者名	C. Meyer, B. Neue, D. Schepmann, S. Yanagisawa, <u>J. Yamaguchi</u> , E-U Würthwein, <u>K. Itami</u> and B. Wünsch								
	題名	<i>Exploitation of an Additional Hydrophobic Pocket of σ1 Receptors: Late-Stage Diverse Modifications of Spirocyclic Thiophenes by C-H Bond Functionalization</i>				掲載誌名	<i>Org. Biomol. Chem.</i>			
	発行所	Royal Society of Chemistry Publishing	巻号	9	頁	8016~8029	発行年	2011年	査読	有

②国際会議における発表

・著者(参加教員等・大学院学生を含む全員の氏名を、論文等と同一の順番で記載すること)、題名、発表した学会名、開催場所、論文等の番号、月・年を記載してください。発表者にはアンダーラインを付してください。

・ 口頭・ポスターの別、査読の有無を区分して○印を付してください。

1	著者名	<u>T. Matsumoto</u>								
	題名	<i>Heteronuclear Chalcogenido Clusters of Germanium and Late Transition Metals</i>				口頭ポスター	査読	有 <input type="radio"/> 無 <input type="radio"/>		
	学会名	IRTG Fellows Scientific Seminar		場所	Münster, Germany		番号	— 2007年 4月		
	著者名	<u>K. Itami</u>								

2	題名	<i>Creation of Functional Materials Based on Catalytic C-H Bond Functionalization</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 3rd Joint Seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2007年 4月
3	著者名	<u>S. Yanagisawa</u> , T. Sudo, R. Noyori, K. Itami					
	題名	<i>Direct Arylation of Arenes with Aryl Iodides via Rhodium Catalysis</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 3rd Joint Seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2007年 4月
4	著者名	O. Coutelier, Y. Shiota, S. Yanagisawa, T. Inoue, R. Noyori, K. Yoshizawa, and <u>K. Itami</u>					
	題名	<i>On the Mechanism of Rhodium-Catalyzed Direct Arylation of Arene</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 3rd Joint Seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2007年 4月
5	著者名	<u>M. Nambo</u> , R. Noyori, and K. Itami					
	題名	<i>Rh-Catalyzed Arylation and Alkenylation of C60 Using Organoboron Compounds</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 3rd Joint Seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2007年 4月
6	著者名	<u>M. Ohta</u> , R. Noyori, and K. Itami					
	題名	<i>Catalytic C-H/C-H Coupling of Methylamines and Arenes</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 3rd Joint Seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2007年 4月
7	著者名	K. Miyata, <u>K. Tsuda</u> , M. Yoshimura, H. Huang, and M. Kitamura					
	題名	<i>Metal Complexes of R-BINAN-R'-Py and the Catalytic Activity</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 3rd Joint Seminar between Münster	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2007年 4月

	University & Nagoya University						
8	著者名	T. Hirakawa, <u>H. Saburi</u> , S. Tanaka, and M. Kitamura					
	題名	<i>Molecular Catalyst Supported on Core/Shell-type Magnetic Micro Particles</i>			口頭・ <input checked="" type="radio"/> ポスター	査読	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
	学会名	The 3rd Joint Seminar between Münster University & Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2007年 4月
9	著者名	<u>T. Taniguchi</u> , R. Hieda, A. Wakamiya, S. Yamaguchi					
	題名	<i>New Electron Transporting Materials Containing Intramolecular B-N Coordination</i>			口頭・ <input checked="" type="radio"/> ポスター	査読	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
	学会名	The 3rd joint seminar between Münster University - Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2007年 4月
10	著者名	<u>H. Yamada</u> , C. Xu, A. Wakamiya, M. Oestreich, S. Yamaguchi					
	題名	<i>Structural Modification of Si-Bridged Ladder Compounds</i>			口頭・ <input checked="" type="radio"/> ポスター	査読	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
	学会名	The 3rd joint seminar between Münster University - Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2007年 4月
11	著者名	<u>M. Ito</u>					
	題名	<i>Dinuclear Nickel Complexes Modeling the Active Site of Acetyl-CoA Synthase</i>			口頭・ <input checked="" type="radio"/> ポスター	査読	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
	学会名	The 3rd joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2007年 4月
12	著者名	<u>Y. Ohki</u>					
	題名	<i>Synthesis of the P-cluster [8Fe-7S] Core of Nitrogenase</i>			<input checked="" type="radio"/> 口頭・ <input checked="" type="radio"/> ポスター	査読	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
	学会名	The 3rd joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2007年 4月
13	著者名	<u>T. Hatanaka</u> , Y. Ohki, K. Tatsumi					
	題名	<i>Coordinatively Unsaturated Cp*Fe Complexes Having Polyarene and N-Heterocyclic Carbene</i>			口頭・ <input checked="" type="radio"/> ポスター	査読	有・ <input checked="" type="radio"/> 無

	学会名	The 3rd joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2007年 4月
14	著者名	<u>T. Ueno</u>					
	題名	<i>Designing Protein Assembly for Biomaterials Chemistry</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 3rd joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2007年 4月
15	著者名	<u>K. Seki</u>					
	題名	<i>Electronic Structures of Vacant Levels in Organic Solids and Ionic Liquids Studied by Inverse Photoemission Spectroscopy</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 3rd joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2007年 4月
16	著者名	<u>K. Saito, K. Kanai, M. Ara, Y. Ouchi, H. Tada, and K. Seki</u>					
	題名	<i>Characterization of Molecular Assemblies on Silicon Surfaces</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 3rd joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2007年 4月
17	著者名	<u>O. Ohno</u>					
	題名	<i>Trial to Access Unknown Natural Products by Using the Genome of Unculturable Bacteria from Marine Sponges</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 4th Joint Seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2007年 9月
18	著者名	<u>K. Itami</u>					
	題名	<i>Catalytic Direct Functionalization of Aromatics: Arenes, Heteroarenes, and Fullerenes</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 4th Joint Seminar between Münster	場所	Münster, Germany	番号	—	2007年 9月

	University and Nagoya University						
19	著者名	M. Ito, T. Matsumoto, K. Tatsumi					
	題名	<i>Synthesis of Dinuclear Nickel Complexes as Structural and Reaction Models for an Active Site of Acetyl-CoA Synthase</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 4th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2007年 9月
20	著者名	D. Huber, S. Tanino, R. Fröhlich, G. Kehr, K. Tatsumi, G. Erker					
	題名	<i>New Phosphorus- and Boron-substituted Ferrocenes and Ferrocenophanes</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 4th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2007年 9月
21	著者名	S. Saito					
	題名	<i>Design of Acid–base Catalysis for Organic Synthesis: Directed toward Direct Aldol Reaction of Organoamides</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 3rd joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2007年 9月
22	著者名	J. Yoshimoto, R. Noyori, and S. Saito					
	題名	<i>Aqua Aminoorganoboron Catalyst: Engineering Water to Act as an Active Site Acid Catalyst for Aldol-type Reactions</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 3rd joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2007年 9月
23	著者名	Y. Watanabe					
	題名	<i>Transformation of Cytochrome P450_{BSB} into a Versatile Peroxygenase</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 4th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2007年 9月

24	著者名	<u>S. Abe</u>					
	題名	<i>Structures and Catalytic Reactions of Organometallic Complexes in a Protein Nano Cage</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 4th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2007年 9月
25	著者名	<u>Y. Asada</u>					
	題名	<i>Observation and Characterization of SWNT-DNA Hybrids by Electric Force Microscopy</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 4th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2007年 9月
26	著者名	<u>K. Ohashi</u>					
	題名	<i>UHV-STM/STS Observation of Lu₂@C₇₆ Metallofullerene</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 4th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2007年 9月
27	著者名	<u>K. Awaga</u>					
	題名	<i>Solid-State Electrochemical Processes in Molecular Clusters and Thin Films</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 4th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2007年 9月
28	著者名	<u>K. Tatsumi</u>					
	題名	<i>International Graduate Schools</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	DAAD Seminar Series	場所	Osaka, Japan	番号	—	2007年 10月
29	著者名	<u>M. Sakamoto, Y. Ohki, and K. Tatsumi</u>					
	題名	<i>Synthesis and Reactivity of Coordinatively Unsaturated Iridium and Rhodium Complexes Having a Bulky Thiolate Ligand</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	IRTG Rothenberge Symposium	場所	Rothenberge, Germany	番号	—	2008年 3月
30	著者名	<u>M. Nambo and K. Itami</u>					
	題名	<i>Chemical Modification of Fullerene through Rh and Pd Catalysis</i>			口頭・ポスター	査読	有・無

	学会名	The 5th Joint Seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2008年5月
31	著者名	<u>M. Kitamura</u>					
	題名	<i>Origin of the Minor Enantiomeric Product in NOYORI Olefin Hydrogenation</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 5th Joint Seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2008年5月
32	著者名	<u>S. Yamaguchi</u>					
	題名	<i>Main Group Approach to New Functional pi-Electron Materials</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 5th joint seminar between Münster University-Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2008年5月
33	著者名	<u>Y. Watanabe</u>					
	題名	<i>Coordination Chemistry on Protein Super Structures</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 5th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2008年5月
34	著者名	<u>S. Kuwahara</u>					
	題名	<i>Determining Molar Absorbance Coefficients of Single-Walled Carbon Nanotubes</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 5th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2008年5月
35	著者名	<u>K. Kanai</u>					
	題名	<i>Study on Electronic Structure of Electronic Functional Organic Materials by Electron Spectroscopy</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 5th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2008年5月
36	著者名	<u>Y. Kondo</u>					
	題名	<i>Preparation, Photocatalytic Activities, and</i>			口頭・ポスター	査読	有・無

	<i>Dye-Sensitized Solar-Cell Performance of Submicron-Scale TiO₂ Hollow Spheres</i>					
学会名	The 5th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2008年5月
37	著者名	J. Bouffard and K. Itami				
	題名	<i>Nickel-Catalyzed Addition of Organoboron Compounds to Ketones</i>		口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 6th Joint Seminar between Münster University & Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—
38	著者名	H. Omachi and K. Itami				
	題名	<i>C-H Bond Arylation Allylsilanes through Rhodium Catalysis</i>		口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 6th Joint Seminar between Münster University & Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—
39	著者名	B. Join, T. Yamamoto, and K. Itami				
	題名	<i>Iridium-Catalyzed C-H Bond Arylation of Heteroaromatics</i>		口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 6th Joint Seminar between Münster University & Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—
40	著者名	I. Ban, T. Sudo, T. Taniguchi, and K. Itami				
	題名	<i>Copper-Mediated C-H Bond Arylation of Arenes with Arylboronic Acids</i>		口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 6th Joint Seminar between Münster University & Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—
41	著者名	K. Ueda, S. Yanagisawa, T. Taniguchi, and K. Itami				
	題名	<i>Potassium <i>t</i>-Butoxide Alone Can Promote the Biaryl Coupling of Electron-Deficient Nitrogen Heterocycles and Haloarenes</i>		口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 6th Joint Seminar	場所	Nagoya, Japan	番号	—

	between Münster University & Nagoya University						
42	著者名	S. Mori, <u>M. Nambo</u> , L-C Chi, J. Bouffard, and K. Itami					
	題名	<i>A Bench-Stable Pd Catalyst for the Hydroarylation of Fullerene with Boronic Acids</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 6th Joint Seminar between Münster University & Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2008年10月
43	著者名	<u>A. Wakamiya</u>					
	題名	<i>Peripheral pi-Conjugation in Boracycles: Dianionic Species of Dithieno and Dibenzo Annulated 1H,2H-1,2-Diborins</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 6th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2008年10月
44	著者名	H. Zhang, T. Karasawa, <u>H. Yamada</u> , A. Wakamiya, and S. Yamaguchi					
	題名	<i>Dibenzof[b,f]pentalenes Synthesized by Intramolecular Reductive Double Cyclization of o,o'-Bis(arylcarbonyl)diphenylacetylenes</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 6th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2008年10月
45	著者名	A. Fukazawa, Y. Ichihashi, <u>Y. Kosaka</u> , and S. Yamaguchi					
	題名	<i>Benzo[b]phosphole Oxides and Their Extended Analogues as a New Electron-accepting pi-Electron Systems</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 6th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2008年10月
46	著者名	<u>T. Hatanaka</u>					
	題名	<i>C-H Bond Activation of Heteroarenes Mediated by a Half Sandwich Iron Complex of N-Heterocyclic Carbene</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 6th joint seminar between Münster	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2008年10月

		University and Nagoya University					
47	著者名	T. Matsumoto					
	題名	<i>Chalcogenide-Bridged Ru-Ge Dinuclear Complexes: Protonation Effects upon Structure and Reactions</i>			<input checked="" type="radio"/> 口頭・ポスター	査読	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
	学会名	The 6th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2008年10月
48	著者名	S. Ohta, Y. Ikagawa, R. Suizu, W. –S. Han, Y. Ohki, K. Tatsumi					
	題名	<i>Synthesis of [8Fe-7S] and [6Fe-5S] Clusters from Low-coordinate Fe(II) Thiolates</i>			<input checked="" type="radio"/> 口頭・ポスター	査読	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
	学会名	The 6th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2008年10月
49	著者名	N. Yokoi					
	題名	<i>Construction of Cooperative Reaction Systems of Metal Complexes on the Basis of Protein Assemblies</i>			<input checked="" type="radio"/> 口頭・ポスター	査読	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
	学会名	The 6th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2008年10月
50	著者名	H. Nakajima					
	題名	<i>Purification and Structural Analysis of Vanadium Nitrogenase Regulating Protein in Azotobacter vinelandii,</i>			<input checked="" type="radio"/> 口頭・ポスター	査読	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
	学会名	The 6th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2008年10月
51	著者名	Y. Miura, N. Yokoi, H. Inaba, H. Cheng-Yuan, S. Kanamaru, F. Arisaka, T. Ueno, Y. Watanabe					
	題名	<i>Construction of Carbon Dioxide Photo-reduction System Using beta-Helical Protein Scaffold</i>			<input checked="" type="radio"/> 口頭・ポスター	査読	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
	学会名	The 6th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2008年10月

52	著者名	<u>K. Akaike</u>						
	題名	<i>Electronic Structure of Organic Materials and Interfaces Related to Organic Solar Cells</i>				口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 6th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2008年10月	
53	著者名	K. Sakai, <u>K. Koyasu</u> , Y. Ouchi, K. Seki, and K. Kanai						
	題名	<i>Electronic Structure of Ba / Poly(9,9-dioctylfluorene) Interface Studied with UPS, XPS and IPES</i>				口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 6th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2008年10月	
54	著者名	<u>K. Awaga</u>						
	題名	<i>Network Structures and Functional Properties of Heterocyclic Compounds Containing Nitrogen and Sulfur</i>				口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 6th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2008年10月	
55	著者名	<u>S. Kose</u> , R. Noyori, S. Saito						
	題名	<i>S. Palladium-catalyzed Coupling Reaction of Alcohols</i>				口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 6th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2008年10月	
56	著者名	<u>S. Oishi</u> , R. Noyori, S. Saito						
	題名	<i>Structure Elucidation of Acid-Base Alternating Molecular Catalyst and Application in Catalytic Reactions</i>				口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 6th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2008年10月	
57	著者名	<u>K. Tatsumi</u>						
	題名	<i>New Synthetic Route to Fe-S Clusters - Application of an Organometallic Strategy -</i>				口頭・ポスター	査読	有・無

	学会名	The 7th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2009年 5月
58	著者名	<u>K. Awaga</u>					
	題名	<i>Organic Radical Electronics</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 7th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2009年 5月
59	著者名	<u>S. Saito</u>					
	題名	<i>New Acid-base Cooperative Catalysis Using Aminoorganoboron (AOB) complexes</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 7th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2009年 5月
60	著者名	<u>Y. Ohuchi</u>					
	題名	<i>Surfaces and Interfaces of Ionic Liquids</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 7th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2009年 5月
61	著者名	<u>O. Shoji</u>					
	題名	<i>Creating Semi-Artificial Enzymes by Tricking the Substrate Recognition of Cytochrome P450BSb</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 7th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2009年 5月
62	著者名	<u>S. Tanaka</u>					
	題名	<i>A Magnetically Separable Heterogeneous Deallylation Catalyst: CpRu(η^3-C₃H₅)(2-pyridinecarboxylato)]PF₆ Complex Supported on a Ferromagnetic Microsize Particle Fe₃O₄@SiO₂</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 7th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2009年 5月

63	著者名	<u>O. Kose</u>					
	題名	<i>Transition Metal-catalyzed Cross-coupling Reaction of Two different Alcohols</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 7th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2009年 5月
64	著者名	<u>K. Nomura</u>					
	題名	<i>Spontaneous Current Oscillation and EPR in Nonlinear Transport of Organic Semiconductor NT3GaCl4</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 7th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2009年 5月
65	著者名	<u>K. Yoshimitsu</u>					
	題名	<i>Nitrogenase Transcriptional Activator, VnfA - Identification of Signal Molecule by Using in vivo Activity Assay System -</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 7th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2009年 5月
66	著者名	<u>K. Ohashi</u>					
	題名	<i>Scanning Tunneling Microscopy/Spectroscopy on the Electronic Structure of Metallofullerene Peapods</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 7th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2009年 5月
67	著者名	<u>A. Iida</u>					
	題名	<i>Design and Synthesis of Intense Blue Emissive π-Electron Systems</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 7th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2009年 5月
68	著者名	<u>C. Zhao</u>					
	題名	<i>Nano-fusion reaction of Linear-Polyyenes inside Thin Double-Wall Carbon Nanotubes</i>			口頭・ポスター	査読	有・無

	学会名	The 8th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2009年 9月	
69	著者名	<u>K. Yamazaki</u>						
	題名	<i>Benzo-Fused BODIPY Derivatives: Synthesis and Properties</i>			口頭	<input checked="" type="radio"/> ポスター	査読	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
	学会名	The 8th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2009年 9月	
70	著者名	<u>Y. Nekohashi</u>						
	題名	<i>Synthesis and Properties of Phosphonium, Borate-Bridged Dithienylethene Dimer</i>			口頭	<input checked="" type="radio"/> ポスター	査読	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
	学会名	The 8th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2009年 9月	
71	著者名	<u>H. Wang</u>						
	題名	<i>In-Situ Magnetic and XAFS Analysis on Charging-Discharging Behavior of Mn₁₂ Molecular Cluster Batteries</i>			口頭	<input checked="" type="radio"/> ポスター	査読	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
	学会名	The 8th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2009年 9月	
72	著者名	<u>T. Fujimoto</u>						
	題名	<i>Crystal Structure and Electrochemical Properties of Octathio[8]circulene</i>			口頭	<input checked="" type="radio"/> ポスター	査読	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
	学会名	The 8th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2009年 9月	
73	著者名	<u>Y. Miyoshi</u>						
	題名	<i>Structural Analysis and Physical Properties of Electrochemically Doped Porphyrazine Thin Films</i>			口頭	<input checked="" type="radio"/> ポスター	査読	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
	学会名	The 8th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2009年 9月	

74	著者名	<u>J. Nishigaki</u>					
	題名	<i>A Model Reaction of Methyl Coenzyme M Reductase: CH₃-S Bond Activation by Ni(I) Cyclam Complexes Having Methylthio-Substituted Pendant Chains</i>			口頭ポスター	査読	有・無
	学会名	The 8th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2009年 9月
75	著者名	<u>Y. Ohki</u>					
	題名	<i>C-H Bond Activation of Arenes Mediated by Half-Sandwich Iron Complexes of N-Heterocyclic Carbene</i>			口頭ポスター	査読	有・無
	学会名	The 8th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2009年 9月
76	著者名	<u>W. Zhou</u>					
	題名	<i>Adsorption of Neat Ionic Liquids on Pt Electrode -An In Situ IR-Visible Sum Frequency Generation Spectroscopic Study-</i>			口頭ポスター	査読	有・無
	学会名	The 8th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2009年 9月
77	著者名	<u>Z. Wang</u>					
	題名	<i>Catalytic Activities of Ferritin Nanocages Encapsulating Palladium Complexes</i>			口頭ポスター	査読	有・無
	学会名	The 8th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2009年 9月
78	著者名	<u>S. Tanaka</u>					
	題名	<i>Catalase Reaction and Heme Degradation of Hydrogen Peroxide-Dependent Cytochrome P450</i>			口頭ポスター	査読	有・無
	学会名	The 8th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2009年 9月
79	著者名	<u>H. Omachi</u>					
	題名	<i>Selective Synthesis of [12]Cycloparaphenylene</i>			口頭ポスター	査読	有・無

	学会名	The 8th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2009年 9月
80	著者名	<u>T. Yamamoto</u>					
	題名	<i>Iridium Catalysis for C-H Bond Arylation of Heteroarenes with Iodoarenes</i>			口頭	ポスター	査読 有(無)
	学会名	The 8th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2009年 9月
81	著者名	<u>T. Seki</u>					
	題名	<i>Asymmetric Catalytic Cyclization of ω-Hydroxy Allyl Alcohols</i>			口頭	ポスター	査読 有(無)
	学会名	The 8th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2009年 9月
82	著者名	<u>H. Nakatsuka</u>					
	題名	<i>BINAN-Py-PPh₂, A NNP-type Tridentate Ligand —DMSO Effect on Asymmetric Hydrogenation by Use of Ru Catalyst—</i>			口頭	ポスター	査読 有(無)
	学会名	The 8th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2009年 9月
83	著者名	<u>S. Oishi</u>					
	題名	<i>Structure Elucidation of Acid-Base Alternating Molecular Catalyst and Application in Catalytic Reactions</i>			口頭	ポスター	査読 有(無)
	学会名	The 8th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2009年 9月
84	著者名	<u>H. Shinohara</u>					
	題名	<i>Putting Atomic Nanowires into Carbon Nanotubes</i>			口頭	ポスター	査読 有(無)
	学会名	The 8th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2009年 9月

85	著者名	<u>K. Itami</u>					
	題名	<i>New Catalysis Leading to Privileged Organic Structures</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 8th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2009年 9月
86	著者名	<u>K. Miyata</u>					
	題名	<i>A New sp²N-Based Bidentate Ligand Naph-diPIM and its Behavior of Metal Complexes</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 8th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2009年 9月
87	著者名	<u>S. Kawano</u>					
	題名	<i>Synthesis of Macrocyclic Metal Complexes Directed Toward Nano-porous Soft Materials</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 8th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2009年 9月
88	著者名	<u>T. Yoshihisa</u>					
	題名	<i>Intracellular Dynamics of tRNA – Mechanism of tRNA Import into the Nucleus</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 8th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2009年 9月
89	著者名	<u>M. Sakamoto</u>					
	題名	<i>Heterolysis of H₂ and Catalytic Hydrogenation of C=O and C=N Bonds Mediated by Coordinatively Unsaturated Rhodium and Iridium Thiolate Complexes</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 8th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2009年 9月
90	著者名	<u>M. Matsushita</u>					
	題名	<i>Giant Negative Magnetoresistance Observed on TTF-Based Organic Donor Radicals</i>			口頭・ポスター	査読	有・無

	学会名	The 8th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2009年 9月
91	著者名	<u>A. Matsuoka</u>					
	題名	<i>Solution Behavior of Chiral η^6-Arene/N-Tosylethylenediamine–Ruthenium Complexes: Key to Efficient Asymmetric Hydrogenation</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月
92	著者名	<u>H. Naka</u>					
	題名	<i>Facile Synthesis of Functionalized Methyl Ketones through Cobalt-Catalyzed Hydration of Terminal Alkynes</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月
93	著者名	<u>T. Fujimoto</u>					
	題名	<i>Electrochemical Field Effect Transistors of Octathio[8]circulene</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月
94	著者名	<u>Y. Miyoshi</u>					
	題名	<i>Electrochemical Doping of Porphyrazine Thin Films and Their Application to Organic Electronics</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月
95	著者名	<u>A. Yamaguchi</u>					
	題名	<i>Indole–Azine C–H Coupling for Natural Product Synthesis</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 9th joint seminar between Münster	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月

		University and Nagoya University						
96	著者名	<u>D. Mandal</u>						
	題名	<i>Studies Toward the Synthesis of Dragmacidin D via Direct C-H bond Arylation</i>			口頭・ポスター	査読	有・無	
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月	
97	著者名	<u>T. Kojima</u>						
	題名	<i>Studies Toward the Synthesis of Murrayazolinol</i>			口頭・ポスター	査読	有・無	
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月	
98	著者名	<u>T. Maekawa</u>						
	題名	<i>Organoboron-Based Arylation of Carbonyls and Alcohols by Nickel Catalyst</i>			口頭・ポスター	査読	有・無	
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月	
99	著者名	<u>S. Matsuura</u>						
	題名	<i>Modular Synthesis of [14], [15], and [16]Cycloparaphenylenes</i>			口頭・ポスター	査読	有・無	
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月	
100	著者名	<u>S. Tani</u>						
	題名	<i>Palladium-Catalyzed C-H/C-H Homo-Coupling of Heteroarenes</i>			口頭・ポスター	査読	有・無	
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月	
101	著者名	<u>S. Yun</u>						
	題名	<i>CVD Growth of Carbon Nanotubes Using Mist Flow Method</i>			口頭・ポスター	査読	有・無	

	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月
102	著者名	<u>K. Shiozawa</u>					
	題名	<i>Structure Control of Single-Wall Carbon Nanotubes for Thin Film Transistors</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月
103	著者名	<u>T. Fujishiro</u>					
	題名	<i>X-ray Crystal Structure Analysis of Hydrogen Peroxide-Dependent Cytochrome P450SPa and Its Application in Oxidation of Non-Natural Substrates</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月
104	著者名	<u>C. Shirataki</u>					
	題名	<i>Oxidation of Aromatic Rings by Myoglobin Mutants</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月
105	著者名	<u>T. Seki</u>					
	題名	<i>Asymmetric Intermolecular O-allylation Using Cl-Naph-PyCOOAl/CpRu Combined Catalyst</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月
106	著者名	<u>H. Nakatsuka</u>					
	題名	<i>sp²N/sp³NH Combined Linear Ligands Ph-BINAN-H-Py and BINAN-Py-PPh₂: Stereoselectivity in Complexation with Octahedral Metals</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月

		Nagoya University						
107	著者名	<u>K. Hiraga</u>						
	題名	<i>Synthesis of a Fluorescent Switchable Porphyrin Triggered by Metal Complexation</i>			口頭 <input checked="" type="radio"/> ポスター	査読	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月	
108	著者名	<u>A. Suzuki</u>						
	題名	<i>Synthesis of Salen-Bridged Dibenzo thiophene Macrocycle Directed Toward Chemical Nano-Space</i>			口頭 <input checked="" type="radio"/> ポスター	査読	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月	
109	著者名	<u>T. Iwahashi</u>						
	題名	<i>Infrared-visible Sum Frequency Generation Spectroscopic Study on the Interfaces of Molecular and Ionic Liquids</i>			口頭 <input checked="" type="radio"/> ポスター	査読	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月	
110	著者名	<u>A. Hishikawa</u>						
	題名	<i>Multiphoton Double Ionization of Ar in Intense Extreme Ultraviolet Laser Fields Studied by Shot-by-Shot Photoelectron Spectroscopy</i>			口頭 <input checked="" type="radio"/> ポスター	査読	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月	
111	著者名	<u>S. Ohta</u>						
	題名	<i>Synthesis of Iron Complexes having Amide/Thiolate/Oxo Ligands from Fe{N(SiMe₃)₂}₂</i>			口頭 <input checked="" type="radio"/> ポスター	査読	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月	
112	著者名	<u>J. Nishigaki</u>						
	題名	<i>The Active Site Models of Methyl Coenzyme M</i>			口頭 <input checked="" type="radio"/> ポスター	査読	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	

	<i>Reductase; Synthesis and Properties of Ni(I) Cyclams Having Methylthio Pendant Arms</i>					
学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月
113	著者名	<u>T. Terada</u>				
	題名	<i>1:3 Site-Differentiated [4Fe-4S] Clusters Carrying a Tridentate Thiolate Ligand and a Carboxylate</i>		口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月
114	著者名	<u>T. Hashimoto</u>				
	題名	<i>Iron Aryl Complexes Having Bulky Thiolate Ligands and Their Reactions with Elemental Sulfur</i>		口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月
115	著者名	<u>D. Kishi</u>				
	題名	<i>Synthesis and Properties of 2,2'-Bi(thieno[2,3-c]thophene)-Containing pi-Electron Systems</i>		口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月
116	著者名	<u>E. Yamaguchi</u>				
	題名	<i>Substituent Effects on the Intramolecular Double Cyclization of Phosphanyl, Boryl-Substituted Diphenylacetylenes</i>		口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月
117	著者名	<u>S. Yanagisawa</u>				
	題名	<i>Synthetic Route to Optically Active Imidazolium Salts and Related N-Heterocyclic Carbene Palladium Complexes</i>		口頭・ポスター	査読	有・無

	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月
118	著者名	<u>Y. Ohki</u>					
	題名	<i>C-H Bond Activation and Borylation of Heteroarenes Promoted by Half-Sandwich Iron Complexes</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月
119	著者名	<u>Y. Yamada</u>					
	題名	<i>Programmable Nanoarrays of Porphyrines and Phthalocyanines</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月
120	著者名	<u>T. Fukushima</u>					
	題名	<i>Photochemical Multi-electron Reduction of Ruthenium Complexes Having NAD Analogous Ligands</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月
121	著者名	<u>A. Hishikawa</u>					
	題名	<i>Visualizing Ultrafast Chemical Reaction by Few-Cycle Intense Laser Pulses</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月
122	著者名	<u>H. Wang</u>					
	題名	<i>In-Situ XAFS Studies on Mn₁₂ Molecular Cluster Batteries</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月

123	著者名	<u>R. Nakanishi</u>					
	題名	<i>Fabrication and Characterization of Metal-Nanowires Encapsulated in Carbon Nanotubes</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月
124	著者名	<u>S. Saito</u>					
	題名	<i>Möbius Aromaticity of Expanded Porphyrins</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月
125	著者名	<u>K. Ueda</u>					
	題名	<i>β-Selective C-H Bond Arylation of Thiophenes</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月
126	著者名	<u>L. Liu</u>					
	題名	<i>Migration Behavior of Graphene Vacancy Defects at Elevated Temperatures</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月
127	著者名	<u>S. Oishi</u>					
	題名	<i>Selective Alcoholysis of β-dicarbonyl Derivatives Catalyzed by Aminoorganoboron (AOB) Complexes</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 9th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2010年 5月
128	著者名	<u>K. Tatsumi</u>					
	題名	<i>Structural Models of The [NiFe] Hydrogenase Active Site</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 10th joint seminar between Münster University and	場所	Münster, Germany	番号	—	2010年 11月

		Nagoya University						
129	著者名	<u>S. Yamaguchi</u>						
	題名	<i>Novel Fused pi-Conjugated Materials with Unusual Properties</i>			口頭・ポスター	査読	有・無	
	学会名	The 10th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2010年12月	
130	著者名	<u>K. Itami</u>						
	題名	<i>Cycloparaphenylenes: Synthesis, Structures, and Properties</i>			口頭・ポスター	査読	有・無	
	学会名	The 10th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2010年11月	
131	著者名	<u>S. Saito</u>						
	題名	<i>Activation of Alcohol as Electrophile for Organic Synthesis</i>			口頭・ポスター	査読	有・無	
	学会名	The 10th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2010年11月	
132	著者名	<u>H. Nakajima</u>						
	題名	<i>Protein Engineering of Cytochrome c from a Thermophile - A Scaffold for Artificial Peroxidase -</i>			口頭・ポスター	査読	有・無	
	学会名	The 10th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2010年12月	
133	著者名	<u>M. Fushitani</u>						
	題名	<i>Generation and Application of Single-Order Harmonics for Ultrafast Time-Resolved Spectroscopy</i>			口頭・ポスター	査読	有・無	
	学会名	The 10th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2010年12月	
134	著者名	<u>T. Hashimoto</u>						
	題名	<i>Synthesis of Coordinatively Unsaturated Mesityliron Thiolate Complexes and Their Reactions with Elemental Sulfur</i>			口頭・ポスター	査読	有・無	

	学会名	The 10th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2010年12月
135	著者名	<u>K. Nagura</u>					
	題名	<i>Novel Fluorescent Oligoarenes; Excited-State Structural Change and Mechanochromism</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 10th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2010年12月
136	著者名	<u>T. Fujishiro</u>					
	題名	<i>Construction of Versatile Monooxygenation Systems Using Hydrogen Peroxide-Dependent Cytochrome P450s</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 10th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2010年12月
137	著者名	<u>H. Nakatsuka</u>					
	題名	<i>Design and Synthesis of Linear N4 Chiral Ligands: Its Application to Asymmetric Hydrogenation of Aromatic Ketones</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 10th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2010年11月
138	著者名	<u>Y. Iijima</u>					
	題名	<i>Scanning Tunneling Microscopy/Spectroscopy Studies on the Local Electronic Structure of Hetero-Metallofullerenes Peapods</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 10th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2010年11月
139	著者名	<u>K. Tatsumi</u>					
	題名	<i>C-H Bond Activation by Coordinatively Unsaturated Iron Complexes with N-Heterocyclic Carbene Auxiliary</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 11th joint seminar between Münster	場所	Münster, Germany	番号	—	2011年5月

		University and Nagoya University						
140	著者名	<u>S. Yamaguchi</u>						
	題名	<i>Boron-Containing π-Conjugated Materials with Unique Structural Features</i>			口頭・ポスター	査読	有・無	
	学会名	The 11th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2011年5月	
141	著者名	<u>K. Itami</u>						
	題名	<i>Toward Controlled Synthesis of Nanocarbons: Fullerenes, Carbon Nanotubes, and Graphenes</i>			口頭・ポスター	査読	有・無	
	学会名	The 11th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2011年5月	
142	著者名	<u>K. Tanaka</u>						
	題名	<i>Programmable Stacked Arrays of Porphyrin and Phthalocyanine</i>			口頭・ポスター	査読	有・無	
	学会名	The 11th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2011年5月	
143	著者名	<u>K. Awaga</u>						
	題名	<i>Crystal Structures and Physical Properties of Thiazyl and Thiadiazole Compounds</i>			口頭・ポスター	査読	有・無	
	学会名	The 11th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2011年5月	
144	著者名	<u>H. Naka</u>						
	題名	<i>A Step Towards Robust Hydration of Organic Compounds Through Molecular Catalysis</i>			口頭・ポスター	査読	有・無	
	学会名	The 11th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2011年5月	
145	著者名	<u>T. Terada</u>						
	題名	<i>Model Synthesis of [1:3] Site-Differentiated [4Fe-4S] Clusters in Organisms</i>			口頭・ポスター	査読	有・無	

	学会名	The 11th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2011年 5月
146	著者名	<u>T. Seki</u>					
	題名	<i>Catalytic Asymmetric Synthesis of α-Alkenyl-substituted Cyclic Ethers</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 11th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2011年 5月
147	著者名	<u>Y. Miyoshi</u>					
	題名	<i>Electrochemical Band-filling Control in Crystalline Thin Films of Porphyrazine Compounds</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 11th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2011年 5月
148	著者名	<u>Y. Sakai</u>					
	題名	<i>IV-SFG Studies on Alkane / Ionic Liquid Interfaces</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 11th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2011年 5月
149	著者名	<u>J. Xu</u>					
	題名	<i>Site-Specific Mutagenesis Approach for Constructing Biocatalyst using Myoglobin Scaffold for Synthesis of Indigo from Indole</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 11th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Münster, Germany	番号	—	2011年 5月
150	著者名	<u>T. Miura</u>					
	題名	<i>CuI/H₂/NaOH-Catalyzed Cross Coupling of Two Different Alcohols for Carbon–Carbon Bond Formation: “Borrowing Hydrogen”?</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月

151	著者名	<u>R. Ushimaru</u>					
	題名	<i>Mechanistic Insights into the Cobalt-Catalyzed Double Addition of Methanol to Terminal Alkynes</i>			口頭 <input checked="" type="radio"/> ポスター <input type="radio"/>	査読	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月
152	著者名	<u>R. Nakanishi</u>					
	題名	<i>Diameter Dependent Structure and Properties of Eu Atomic Wires Inside Carbon Nanotubes</i>			口頭 <input checked="" type="radio"/> ポスター <input type="radio"/>	査読	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月
153	著者名	<u>Y. Sun</u>					
	題名	<i>Selective Chemical Vapor Deposition Growth of Single-Walled Carbon Nanotubes Using C60 Molecule as the Template by Mist Flow Method</i>			口頭 <input checked="" type="radio"/> ポスター <input type="radio"/>	査読	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月
154	著者名	<u>T. Fujimoto</u>					
	題名	<i>Organic Thin Film Transistors Using Ionic Liquid Gate Dielectrics</i>			口頭 <input checked="" type="radio"/> ポスター <input type="radio"/>	査読	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月
155	著者名	<u>K. Takauji</u>					
	題名	<i>Nonlinear Optical Behavior of the Cyclic Thiazyl Radical Compound NT</i>			口頭 <input checked="" type="radio"/> ポスター <input type="radio"/>	査読	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月
156	著者名	<u>R. Kakuya</u>					
	題名	<i>Ring-expansion living radical polymerization of styrene with nitroxide-based cyclic initiators</i>			口頭 <input checked="" type="radio"/> ポスター <input type="radio"/>	査読	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>

	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月	
157	著者名	<u>Y. Sakai</u>						
	題名	<i>IV-SFG Studies on Ionic Liquid / Alkane Interfaces</i>			口頭	<input checked="" type="radio"/> ポスター	査読	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月	
158	著者名	<u>T. Endo</u>						
	題名	<i>Effects of Initial Electronic States on Dissociative Ionization of NO in Few-Cycle Intense Laser Fields</i>			口頭	<input checked="" type="radio"/> ポスター	査読	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月	
159	著者名	<u>M. Fushitani</u>						
	題名	<i>Real Time Probing of Dissociating I₂ Molecules by EUV Photoelectron Spectroscopy</i>			口頭	<input checked="" type="radio"/> ポスター	査読	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月	
160	著者名	<u>S. Ohta</u>						
	題名	<i>Synthesis of Iron-Sulfide-Oxo Clusters from a Thiolate-Alkoxide Complex of Iron(II)</i>			口頭	<input checked="" type="radio"/> ポスター	査読	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月	
161	著者名	<u>T. Terada</u>						
	題名	<i>Synthesis of [3Fe-4S] Cluster by Removal of an Iron from [4Fe-4S] Cluster Carrying Tridentate Thiolate</i>			口頭	<input checked="" type="radio"/> ポスター	査読	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月	
162	著者名	<u>N. Taniyama</u>						
	題名	<i>Synthesis of Molybdenum(IV) and Vanadium(III)</i>			口頭	<input checked="" type="radio"/> ポスター	査読	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>

		<i>Thiolate Complexes Bearing a Phenoxide-Based Tridentate Ligand and their Reactions with Iron</i>						
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月	
163	著者名	<u>K. Muto</u>						
	題名	<i>Nickel-catalyzed C-H Arylation of Azoles</i>			口頭	ポスター	査読	有(無)
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月	
164	著者名	<u>A. Yagi</u>						
	題名	<i>Synthesis and Properties of Cyclonaphthylene</i>			口頭	ポスター	査読	有(無)
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月	
165	著者名	<u>M. Matsushita</u>						
	題名	<i>Design and Synthesis of Chiral Picolinic Acid Derivatives Toward Asymmetric Dehydrative Allylation</i>			口頭	ポスター	査読	有(無)
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月	
166	著者名	<u>S. Aoyama</u>						
	題名	<i>CpRu-Catalyzed Asymmetric Dehydrative S-Allylation</i>			口頭	ポスター	査読	有(無)
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月	
167	著者名	<u>Sk. Md. Ibrahim</u>						
	題名	<i>Engineering of Cytochrome c for Facile Conversion of the Prosthetic Group</i>			口頭	ポスター	査読	有(無)
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月	

		Nagoya University						
168	著者名	<u>O. Shoji</u>						
	題名	<i>Crystal structures of Hydrogen Peroxide-Dependent Cytochrome P450s including Decoy Molecules and Oxidation Reaction of Non-natural Substrates</i>			口頭ポスター	査読	有無	
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年10月	
169	著者名	<u>T. Nishino</u>						
	題名	<i>Stacked Assembly of Macrocyclic Metal Complexes via Discrete Multiplex Formation of Ligand-bearing Oligo-urea</i>			口頭ポスター	査読	有無	
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年10月	
170	著者名	<u>Y. Ishida</u>						
	題名	<i>Syntheses of Metallo-Macrocycles Consisted of Salphene-Bridged Carbazole Directed Toward Nanochannels in Liquid Crystal</i>			口頭ポスター	査読	有無	
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年10月	
171	著者名	<u>T. Seki</u>						
	題名	<i>Dynamic π-Extended Cyclooctatetraenes: Synthesis, Structures, and Photophysical Properties</i>			口頭ポスター	査読	有無	
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年10月	
172	著者名	<u>A. Matsuoka</u>						
	題名	<i>Synthesis and Properties of Thiazolothiophene-thienothiophene Hybrid π-Electron Systems</i>			口頭ポスター	査読	有無	
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年10月	

173	著者名	<u>L. Liu</u>					
	題名	<i>Importance of Radical Unimolecular Decomposition Pathways of Succinic Acid at High Temperature</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月
174	著者名	<u>J. Yamaguchi</u>					
	題名	<i>Synthesis of Dragmacidin D via Direct C-H Couplings</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月
175	著者名	<u>S. Irle</u>					
	題名	<i>Origin of the Unusual Blue-Shift of [n]cycloparaphenylene Fluorescence with Increasing Size n</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月
176	著者名	<u>A. Matsuda</u>					
	題名	<i>Probing Isomerization and Association Reactions of Acetylene by Ultrafast Nonlinear Laser Spectroscopy</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月
177	著者名	<u>F. Siong-Wan</u>					
	題名	<i>Aldol Condensation of Carboxamide Using Catalytic Approach</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月
178	著者名	<u>H. Nakatsuka</u>					
	題名	<i>Synthesis of 1,4-dialkoxy-1,4-diboryloxy-1,3-butadiene and Its Application to Diels-Alder Reaction</i>			口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	The 12th joint seminar	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月

		between Münster University and Nagoya University						
179	著者名	<u>Y. Watanabe</u>						
	題名	<i>Novel Approaches for the Construction of Metalloenzymes</i>			口頭・ポスター		査読	有・無
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月	
180	著者名	<u>T. Kushida</u>						
	題名	<i>Reactivity of Planar-Constrained Triarylboranes: Synthesis and Properties of Borataanthracene and Bora-Cyclophanes</i>			口頭・ポスター		査読	有・無
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月	
181	著者名	<u>K. Tanifuji</u>						
	題名	<i>Ligand Exchange Reaction of Highly Oxidized [Fe4S4] Clusters Bearing Amides and Formation of a [Fe-Fe4S4] Clusters</i>			口頭・ポスター		査読	有・無
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月	
182	著者名	<u>H. Yoshikawa</u>						
	題名	<i>Novel Rechargeable Batteries Using Molecular Clusters ---Performance, Reaction Mechanism, and Nanohybridization</i>			口頭・ポスター		査読	有・無
	学会名	The 12th joint seminar between Münster University and Nagoya University	場所	Nagoya, Japan	番号	—	2011年 10月	

③国内会議・シンポジウム等における発表

- ②と同様に記載してください。

1	著者名	安部聡、J. Niemeyer、上野隆史、平田邦夫、清水伸隆、高田昌樹、G. Erker、渡辺芳人						
	題名	フェリチンナノ空間を用いた金属錯体の機能制御	場所	大阪市	番号	口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	日本化学会第 87 春季年会	場所	大阪市	番号		2007 年 3 月	
2	著者名	安部聡、J. Niemeyer、上野隆史、平田邦生、高田昌樹、G. Erker、渡辺芳人						
	題名	蛋白質超分子構造体による金属錯体の固定化と触媒反応制御	場所	名古屋市	番号	口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	第 57 回錯体化学討論会	場所	名古屋市	番号		2007 年 9 月	
3	著者名	千駄 俊介、F. Eweiner、G. Kehr、G. Erker、巽和行						
	題名	長鎖アルキルチオラート配位子を有する Cp*W スルフィド錯体の合成と金表面上での配向挙動	場所	名古屋市	番号	口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	第 57 回錯体化学討論会	場所	名古屋市	番号		2007 年 9 月	
4	著者名	谷野聡一郎、R. Froehlich、G. Kehr、大木靖弘、巽和行、G. Erker						
	題名	ホスフィンおよびボランを有するフェロセン誘導体の合成と水素活性化	場所	東京都	番号	口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	日本化学会第 88 春季年会	場所	東京都	番号		2008 年 3 月	
5	著者名	白瀧千夏子、C. Wiese、荘司長三、渡辺芳人						
	題名	ミオグロビンによる芳香環水酸化反応	場所	名古屋市	番号	口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	第 14 回錯体化学若手の会 中部・東海支部 勉強会	場所	名古屋市	番号		2008 年 11 月	
6	著者名	白瀧千夏子、C. Wiese、荘司長三、渡辺芳人						
	題名	ミオグロビンによる芳香環水酸化反応	場所	名古屋市	番号	口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	第 2 回日本化学会東海支部若手研究者フォーラム	場所	名古屋市	番号		2008 年 12 月	
7	著者名	荘司長三、C. Wiese、藤城貴史、B. Wünsch、永野真吾、城宜嗣、渡辺芳人						
	題名	過酸化水素駆動型シトクロム P450Bsb による芳香環水酸化反応	場所	船橋市	番号	口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	日本化学会第 89 春季年会	場所	船橋市	番号		2009 年 3 月	
8	著者名	竹澤悠典、P. Bockmann、杉直紀、日影達夫、上野隆史、G. Erker、渡辺芳人						
	題名	ケージ状蛋白質フェリチン内への有機金属ルテニウム錯体の固定化	場所	福岡市	番号	口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	第 24 回生体機能関連化学シンポジウム	場所	福岡市	番号		2009 年 9 月	
9	著者名	白瀧千夏子、C. Wiese、荘司長三、渡辺芳人						
	題名	ヘム酵素モデルタンパク質による高難度酸化反応	場所	名古屋市	番号	口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	名古屋大学若手女性研究者サイエンスフォーラム	場所	名古屋市	番号		2009 年 8 月	
10	著者名	白瀧千夏子、C. Wiese、荘司長三、渡辺芳人						
	題名	ミオグロビン変異体による高難度酸化反応	場所	岐阜市	番号	口頭・ポスター	査読	有・無
	学会名	第 40 回中部化学関係学協会支部連合秋季大会	場所	岐阜市	番号		2009 年 11 月	

11	著者名	千駄俊介、F. Eweiner、G. Erker、巽和行				
	題名	長鎖アルカンチオラート配位子を有する半サンドイッチ型タングステン錯体の合成と金表面上での配向構造	口頭・ポスター	査読	有・無	
	学会名	日本化学会第 89 春季年会	場所	船橋市	番号	2009 年 3 月
12	著者名	谷聡、S. Kirchberg、山口潤一郎、伊丹健一郎				
	題名	チアプールの C-H 結合アリール化反応における位置選択性の制御	口頭・ポスター	査読	有・無	
	学会名	第 21 回基礎有機化学討論会	場所	名古屋市	番号	2010 年 9 月
13	著者名	柳澤周一、植田桐加、S. Kirchberg、谷聡、山口潤一郎、伊丹健一郎				
	題名	アリールチオフェンの自在合成を指向した位置選択的 C-H 結合アリール化触媒の開発	口頭・ポスター	査読	有・無	
	学会名	第 21 回基礎有機化学討論会	場所	名古屋市	番号	2010 年 9 月
14	著者名	三吉 康仁、吉川 浩史、阿波賀 邦夫、H. Eckert				
	題名	結晶多形を示すリチウムフタロシアニンの選択的結晶育成とその物性	口頭・ポスター	査読	有・無	
	学会名	分子科学討論会 2010 大阪	場所	豊中市	番号	2010 年 9 月
15	著者名	白瀧千夏子、荘司長三、C. Wiese、渡辺芳人				
	題名	ミオグロビン変異体による芳香環酸化反応	口頭・ポスター	査読	有・無	
	学会名	日本化学会第 90 春季年会	場所	東大阪市	番号	2010 年 3 月
16	著者名	吉川 浩史、王 恒、河崎 直也、H. Eckert、阿波賀 邦夫				
	題名	分子クラスター電池におけるキャパシタ効果の解明	口頭・ポスター	査読	有・無	
	学会名	分子科学討論会 2011 札幌	場所	札幌市	番号	2011 年 9 月
17	著者名	H. Wang, Z. Zeng, N. Kawasaki, H. Yoshikawa, K. Awaga, H. Eckert				
	題名	Solid-state ⁷ Li NMR studies of Mn ₁₂ molecular cluster batteries	口頭・ポスター	査読	有・無	
	学会名	ナノ学会第 9 回大会	場所	札幌市	番号	2011 年 6 月
18	著者名	名倉和彦、斉藤尚平、F. Glorius、山口茂弘				
	題名	分子内に N-ヘテロサイクリックカルベンとボラン部位を含む π 共役系の合成と物性	口頭・ポスター	査読	有・無	
	学会名	日本化学会第 92 春季年会	場所	横浜市	番号	2012 年 3 月

(3) 共同セミナーの開催実績について記入してください。(詳細は別表 2 により記入してください。)

1	セミナー名	第 3 回ミュンスター大学・名古屋大学共同セミナー		
	開催期間	平成 19 年 4 月 19 日—20 日		
	開催場所	名古屋大学		
	参加者数	日本側	合計 95 名(教員等 15 名、大学院学生 60 名、その他 20 名))	
		ドイツ側	合計 10 名(教員等 8 名、大学院学生 2 名)	
2	セミナー名	第 4 回ミュンスター大学・名古屋大学共同セミナー		
	開催期間	平成 19 年 9 月 6 日—7 日		
	開催場所	ミュンスター大学		
	参加者数	日本側	合計 10 名(教員等 6 名、大学院学生 4 名)	
		ドイツ側	合計 90 名(教員等 15 名、大学院学生 65 名、その他 10 名)	

3	セミナー名	第5回ミュンスター大学・名古屋大学共同セミナー	
	開催期間	平成20年5月1日—2日	
	開催場所	ミュンスター大学	
	参加者数	日本側	合計 10名(教員等 6名、大学院学生 4名)
		ドイツ側	合計 95名(教員等 15名、大学院学生 80名)
4	セミナー名	第6回ミュンスター大学・名古屋大学共同セミナー	
	開催期間	平成20年10月2日—3日	
	開催場所	名古屋大学	
	参加者数	日本側	合計 95名(教員等 15名、大学院学生 60名、その他 20名)
		ドイツ側	合計 14名(教員等 7名、大学院学生 7名)
5	セミナー名	第7回ミュンスター大学・名古屋大学共同セミナー	
	開催期間	平成21年5月1日—2日	
	開催場所	ミュンスター大学	
	参加者数	日本側	合計 11名(教員等 6名、大学院学生 5名)
		ドイツ側	合計 99名(教員等 15名、大学院学生 80名、その他 4名)
6	セミナー名	第8回ミュンスター大学・名古屋大学共同セミナー	
	開催期間	平成21年9月28日—29日	
	開催場所	名古屋大学	
	参加者数	日本側	合計 90名(教員等 20名、大学院学生 70名)
		ドイツ側	合計 14名(教員等 8名、大学院学生 6名)
7	セミナー名	第9回ミュンスター大学・名古屋大学共同セミナー	
	開催期間	平成22年5月24日—25日	
	開催場所	名古屋大学	
	参加者数	日本側	合計 90名(教員等 20名、大学院学生 70名)
		ドイツ側	合計 13名(教員等 10名、大学院学生 3名)
8	セミナー名	第10回ミュンスター大学・名古屋大学共同セミナー	
	開催期間	平成22年11月30日—12月1日	
	開催場所	ミュンスター大学	
	参加者数	日本側	合計 11名(教員等 6名、大学院学生 5名)
		ドイツ側	合計 110名(教員等 20名、大学院学生 90名)
9	セミナー名	第11回ミュンスター大学・名古屋大学共同セミナー	
	開催期間	平成23年5月9日—10日	
	開催場所	ミュンスター大学	
	参加者数	日本側	合計 11名(教員等 6名、大学院学生 5名)
		ドイツ側	合計 155名(教員等 20名、大学院学生 120名、その他 15名)
10	セミナー名	第12回ミュンスター大学・名古屋大学共同セミナー	
	開催期間	平成23年10月3日—4日	
	開催場所	名古屋大学	
	参加者数	日本側	合計 150名(教員等 30名、大学院学生 80名、その他 40名)
		ドイツ側	合計 16名(教員等 7名、大学院学生 7名、その他 2名)

(4) 派遣・受入実績について記入してください。(詳細は別表3により記入してください。)

(名)

	派遣数(日本→ドイツ)			受入数(ドイツ→日本)		
	教員等	大学院生	合計	教員等	大学院生	合計
平成 19 年度	9	10	19	12	11	23
平成 20 年度	10	9	19	9	11	20
平成 21 年度	11	12	23	9	15	24
平成 22 年度	8	10	18	12	14	26
平成 23 年度	8	11	19	9	14	23